

平成 29 年度の議論がスタート!

多様な業種の若手経営者の皆様をはじめ、金融機関や産業支援機関の方々など約 100 名御参加の下、9 月 11 日、平成 29 年度第 1 回「京都市中小企業未来力会議」を京都中央信用金庫本店にて開催!

当日は、キックオフミーティングで募集したビジネスアイデアの実現に向けて、真剣かつ建設的な意見交換を実施。今年度の議論が、いよいよスタートしました!!

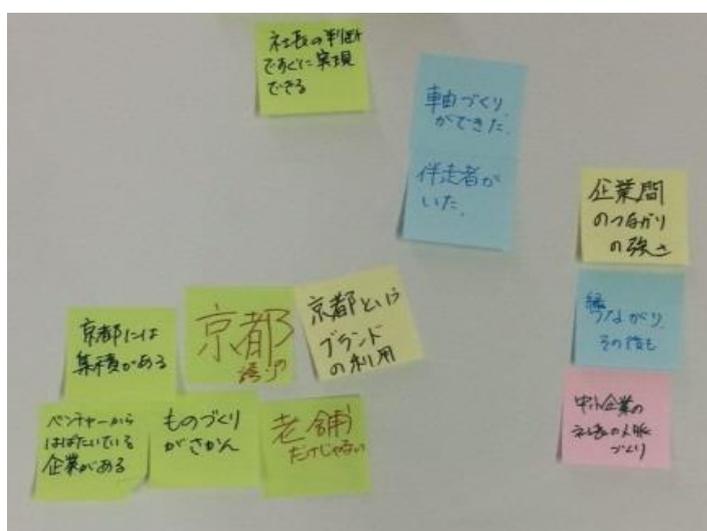


～グループディスカッション①～

一般社団法人リリースの進行のもと、参加者が 20 テーブルで 5 人程度のグループに分かれ、それぞれが思う「**京都の中小企業の未来力（可能性など）を感じた瞬間、見聞きした出来事とは?**」をテーブルごとに話し合い共有しました。

《主なご意見》

- ・革新的なアイデア力
- ・地域とのつながりが深い
- ・世界中から人が集まる土地
- ・用の美
- ・即応力がある（フットワークが軽い）
- ・閉鎖的だが心を開くととことん付き合える
- ・多くの文化との融合が図れること
- ・若者ががんばっている
- ・東京にはない歴史的コンテンツが埋まっている
- ・大学とのつながりがあるベンチャーが多い
- ・古い中に新しいものを取り入れる柔軟さ
- ・企業間のつながりの強さ
- ・中小企業は実はダイバーシティ経営
- ・伝統産業や近代産業などあらゆる産業が立地している



～グループディスカッション②～

事前に提出された 18 のビジネスアイデアのうち発案者欠席を除く 16 のアイデアについて、発案者が概要や課題意識など**熱い思いを発表!**その後、アイデアごとに関心のある参加者がテーブルを囲み、詳細な内容を聞いて共有するなど、実現に向けて活発な意見交換が交わされました。



<アイデア別ディスカッションの内容(矢印は参加者との意見交換の抜粋)>

アイデア①

「未来をつくるはじまりは、あなたと一緒にごはんを食べること」

(概要)「あなたと一緒にごはんを食べること」はお互いの心を近づけるには最適な方法だと考える。目的を共有した上で、一緒にご飯をたべることにより、お互いの心を近づけることができる。



発案者：桜栄印刷株式会社 中西 厚詞

- 防災の取組として飯盒炊さんを行うのはどうか。
- 鍋料理を出して、野菜を切る作業を子どもと一緒にすれば交流できる。
- 毎回の実践者もバトンタッチしていくといったやり方の方が継続して取り組んでいけるのではないかな。

アイデア②

「働き方改革」

(概要)京都市に事業所のある企業で、月に数日、時短勤務を取り入れ可能な企業には京都市が認証(ある一定の条件を設定)を行い、認証を受けた企業は働き方改革に取り組んでいる企業として認知が広められ、若者が安心して働ける職場の選択肢として提供する。



発案者：日栄無線株式会社 志磨 弘道

- ニーズは人それぞれ。いろんな認証をまとめて閲覧できるサイトのようなものがあれば便利。
- 業界によっては月2回の時短でもハードルが高い。
- だらだら残業しても早く帰る場合と結果(成果)は同じことが多い、意識の持ち様。

アイデア③

「京都の観光おもてなしプラットフォーム構築」

(概要)京都・観光関連アプリ・サービスの共通基盤を作成し、それぞれのアプリが簡単にオープンデータなどを活用できるようにする。



発案者：京なか GOZAN 桂田 佳代子

- 観光地の分散化を進めるべき。
- アプリは乱立させると、結局は使いにくくなるので、吟味が必要。
- 最終どこまでのプラットフォームにするのかの目標を明確に決めるべき。

アイデア④

「出版メディアで、まちおこし!本屋を活かして活性化」 チャレンジ戦(仮)

(概要)活性化に取り組みたい地域・商店街とお近くの書店を結び、出版コンテンツを利用できるよう著作権者との交渉や作家・画家のサイン会などの開催をお手伝いしていきたい。



発案者：京都府書店商業組合(株式会社ふたば書房) 洞本 昌哉

- 地域の歴史を紹介する本を作ってみてはどうか。
- ARを活用したスタンプラリーはどうか。
- デジタルグッズを作るのは割合簡単ですぐに対応できる。

アイデア⑤

「第2新卒者等の求職者と中小企業とのマッチングサイトの構築」

(概要)就職後数年で辞めた若者と、若い人材を求めている中小企業との『出会いの場』の創出。



発案者：シスポーツ株式会社 米田 明

- 企業の経営課題で人材不足の声を聞く機会が多い。
- 新卒者の3割が3年で辞めている。どこにいったのか。何故やめたのかを把握しきれていないのが課題。
- まず若年者と中小企業との交流・出会いの場を創出すべき。

アイデア⑥

「京都の女子大生がナビゲートする京都音声 観光ガイド」

(概要)ガイドブックなどにはあまり載っていない、かつ観光客が「おもしろい!」と興味をもつような情報をGPS連動のスマホアプリで、例えば、ネットワークのある京都女子大と連携した音声ガイドを作製する。基本システムは富士ゼロックス社製アプリを利用。



発案者：サンケイデザイン株式会社 吉川 忠男

- 収益モデルとなるには外国人向け、日本人向け、両方など対象をしばることも必要。
- 企業等の協賛で行うほうが利用促進になるのでは。
- 地域に詳しい人が、ガイドブックに乗っていない案内コンテンツを紹介するのは面白い。

アイデア①

「発酵食堂カモシカの健康経営コンサルティング事業

～ビジネスの最前線に発酵食を注入する♪～

(概要) 健康経営に問題意識や課題感のある企業を対象に、半年～1年間、「働く人の台所に発酵食を取り戻す」をコンセプトとし、4つの具体的サービスを実施。

(A. 「健康意識調査」、B. 発酵食ワークショップ、C. 発酵食品割引販売、D. SNSで取組を発信。)

発案者：発酵食堂カモシカ 関 恵

- ターゲットは8割が女性、年齢は40～50代。
- 第一線のビジネスパーソンの食生活を改善できれば、パフォーマンスや生産性向上につながる。
- 企業連携や健康保険組合と連携し取り組めないか。



アイデア⑧

「京都農業 創生」

(概要) 安定した経済活動、安心できる日常生活を送ることができる京都創りに貢献するため、食の源である農業を起点とした経済活動をもう一度見直し安心・安全で「安定」した食の提供をできる環境を作る。

発案者：株式会社中嶋農園 中嶋 直己

- 農業法人は、農地の確保に苦勞している。
- 雇用がなければ、担い手は定着しない。
- 農産物を輸出してはどうか。
- 農業を中心に向島を活性化し、もっと向島に人が来てほしい。



アイデア⑨

「地域の中小企業が育つ「産学公民金」の連携ネットワークをつくる

(地域企業が新しい取組を支える環境をつくる)」

(概要) 中小企業と地域の行政機関、教育機関、金融機関、経済団体、NPO、報道等が連携しネットワークをつくる。

発案者：Medico-tec株式会社 宿野 秀晴

- 中小企業の魅力発信がポイント、自社の魅力をいかに伝えられるか。
- 情報の受発信もSNSを活用するなど、今の時代に合わせる必要がある。
- 区役所、大学、金融機関等との多様な繋がりができるようにしたい。



アイデア⑩

「新しいKOTO出会えるサロン」 in 京町家

(概要) 「二枚目の名刺」など、NPO団体などでビジネスマンや専門家が無償でスキルを提供して労働にやりがいを得るという、新しい働き方の時代がやってきた。自分の強みを互いに発見し合う人生再設計(自分ブランディング)のためのサロンを作りたい。

発案者：京都信用保証協会 糠谷 幸裕

- 運用は地域ごとに差があってもいいのではないかな。
- 仕事は、会社勤めだけでなく自治会・家庭にもあり、仕事のありようが問われている。
- 団塊の世代でも、元気な人はたくさんいる。活躍できる場があればいい。



アイデア⑪

「京北お試し移住・多拠点化促進事業」

(概要) 京北の空き家をDIY改装、シェアハウス化し、多拠点居住者の拠点にしなから、ひとの流れを巻き起こしコミュニティ化する。地域資源を活用した産業を創出し、地域と世界を繋げる。

発案者：株式会社MicroNations 宮内 孝輔

- 人口を維持できることを考える必要がある。
- 田舎には、地域行事参加や消防団等、つきあいのルールがある。
- 若いクリエイター向きの多拠点居住のための事業を進めたい。



アイデア⑫

「セルフリノベーション・インストラクター育成プロジェクト」

(概要) (自分自身で自宅の床材の張り替えるなどの改修を行う)セルフリノベーションをサポートできる「素人以上・職人未満」のインストラクターを育成

発案者：京都移住計画 田村 篤史

- 空き家は多いが、市場に流通しない。
- 地域の協力により、空き家や空き店舗に入居する方の内装工事に係る初期費用が大幅に縮減可能。
- 壁紙の張替え、棚の据付など、DIY可能なパーツに細分化していくことが必要。



アイデア⑬

「おうちごはんが手軽にできる、ママ達がつくる

オーガニック調味料「PAPATTOシリーズ」の開発」

(概要) 食材を切って火を通し混ぜるだけで、本格的なおうちごはんが食卓に並ぶことを可能にする。

若い母親世代と子育てを終えた先輩母親世代の生活の知恵を集め、共同開発することで、商品化に伴う調理補助の仕事づくりへとつなげ、母親達の活躍の場としても展開する。

発案者：カラージュパン株式会社 西村 和代

- 単身赴任の5年間、料理を一切しなかった。
- 一分一秒でも早く、安全な料理を作りたい。
- 単身赴任者向け、学生向け、子育て家庭向け、共働き家庭向け等幅広く展開可能。



アイデア⑭

「空き家を活用したニューツーリズム ～

モノ作りを通じて地域と来街者をつなぐ」

(概要) 利用されていない空き家を使用し、地域住民が利用できる拠点を立ち上げる。ギャラリー・工房という場所を通じて、地域(住民・伝統産業)と来街者をつなぐ。

発案者：株式会社コミュニティ・ラボ 田中 和彦

- 空き家所有者には、入居者とのトラブルなど貸し手側のリスクを感じる人もいる。
- 使える空き家の掘り起しが必要。
- 行政・事業者・発案者が連携し、まず成功事例を作ることが大事。



アイデア⑮

「フューチャー イノベーション」

(概要) 各学校 (大学, 高校, 専門学校, 職業訓練校等) と中小企業の人材マッチング事業や, 会社PR等の代行・仲介, (プロスポーツ企業が行っている人材育成プロジェクトのような) 教育投資ビジネスなど, 人材マッチングビジネスの展開



発案者: 京都商工会議所青年部会長 竹村 一鷹

- 人手不足には, 個々の企業としてではなく, 業種として対応する必要があるのでは。
- 採用も大事だが, 離職防止も大事。
- 学生に関心を持ってもらうには社是や経営理念の明確化から始めることも大事。

アイデア⑯

「着付けのシェアリングサービス アフリの開発」

(概要) スマホで着付け師の手配から現地での着付け, 代金の決済までを行うサービス。全世界どこでも気軽&お得に, 着物姿を楽しみたいユーザーと, 空き時間に着付けの技術を使って副収入を得たい着付け師の方をマッチングする。



発案者: 池内友禪 池内 真広

- 着物レンタルもできるようにするなど, 着物を持っていない人向けのサービスも検討してはどうか。
- 着付け師のメリットも考えた方がよいのでは。
- 内容をもっと具体的にする必要はあるが, 実現可能性の高いアイデアだ。

<当日欠席された方のアイデア>

アイデア⑰

「京都のホームシェアを世界一の交流体験にするための仕組み構築」

(概要) 交流型・同居型ホームシェアのゲストに対し, 事業者が京都ならではのアクティビティを提供する。

アクティビティを提供できる事業者を募り, ホームシェアホストに提供。ホストはゲストに対し, アクティビティを紹介し予約代行を承る。ゲストは事業者に代金を支払い, 事業者はホストに対して, 成果報酬を支払う。

ただ滞在するだけの民泊にするのではなく, 京都ならではのアクティビティを提供することで, ホストとゲストの交流を促し, 世界に先駆けて体験・交流型の民泊の都市京都を実現する。

発案者: 株式会社北井 北井 秀昌

アイデア⑱

「伝統産業のナレッジデータベース構築と高額伝統産品の販路開拓」

(概要) 京都の伝統産業の技術を次世代に受けついでいくために, 制作過程を高画質 (8K など) で撮影しアーカイブする。その様子をインターネットで公開し, 全世界の人々が見ることができるようになる。

上記の動画を活用し, 京都の伝統工芸の作品, その中でも高額品作品を海外に向けて販売する。

生活に密着した伝統産品の開発も大事だが, 技術を残す, 本当のモノを残すために, 海外の富裕国をターゲットにマーケティングを行い, 高額品を販売する事により, 京都の伝統産業を守り, 未来に繋げていく。

発案者: 株式会社コムユースタイル 田中 健一

<今後の予定>

今回のグループディスカッションを踏まえ, アイデア発案者が中心となりグループ形成を進め, アイデアの熟度を高めてまいります。また, 進ちょくを伴走支援するアイデアサポーターが, 多様な視点からアドバイスを行うほか, 必要に応じて, グループワークを行う場所の提供等も行います。

第2回会議は, 平成29年12月20日(水)開催予定です。※時間・場所は, 後日お知らせします。

<お知らせ>

「京都市中小企業未来力会議」のfacebook ページを更新しています。

会議に参加されていない事業者さんへも, 積極的に本会議の様子や最新情報等を発信していきたいと思っておりますので, ぜひ, 「いいね!」や「シェア」をお願いします。

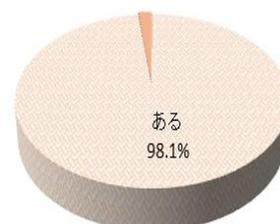
(<https://ja-jp.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>)

<アンケートの結果>

<主な意見>

- 色々な業種の方が参加されていたのが良かった。
- 様々な視点からの意見があり, 今後の取り組みに役立つ。
- 交流会でコラボできる場づくりが欲しい。
- 企業同士の熱い話を聞いて非常に有意義だった。
- たくさんの気づきをいただきました。ありがとうございました。

(問) ビジネスアイデアについて, 関心のあるアイデアはありましたか。



(問) 経営者同士や支援機関の方との新たな繋がりはできましたか。

